



誠・力・光

平成30年11月7日
練馬区立北町中学校
学校だより 11月号

60年の歴史

校長 赤木 宏行

平成30年10月20日（土）、北町中学校・開校60周年記念式典・祝賀会が開催されました。秋空の好天にも恵まれ、盛大に挙行できましたことを関係の皆様にもまずはお礼申し上げます。誠にありがとうございました。

私はこの式典を通して一番嬉しかったことは、生徒達全員が自分の学校が60周年を迎えることを真剣に受け止め、誠実に対応してくれたことです。それは生徒達の動きや姿勢に感じ取ることができました。立ち姿勢や座姿勢、礼の仕方、代表生徒の言葉や吹奏楽部の演奏、合唱曲・校歌の歌声。全てが、今の北町中学校で学ぶ生徒達の想いを表していたからです。本当に立派でした。そして、ありがとうという感謝の気持ちでいっぱいです。

特に合唱曲に編曲した校歌の生徒達の歌声に圧倒されました。私自身、合唱曲の校歌を初めて聞いたのですが、素晴らしい一言でした。編曲して頂いた洗足学園音楽大学教授の瀧口亮介先生には、改めてお礼申し上げます。

長い歴史の中で大勢の卒業生が巣立ち、大勢の地域の方々や保護者の皆様に支えられて現在に至った北町中学校。在校生の一人一人がその歴史に思いを馳せ、胸を張って今を生きてくれることを心から願っています。

11月3日（土）の文化の日に、文化祭が行われました。周年行事の準備等で例年より文化祭の準備期間が十分ではなかったのですが、北町中生の三大行事への想いは、そんな逆境をも吹き飛ばす勢いでした。展示部門では、各教科の課題発表や学年毎のテーマ発表、部活動の展示発表。どの展示も力作で見応えのあるものばかりでした。舞台部門では、各学年の劇と吹奏楽部の演奏。1年生の英語劇、2年生の群読劇、3年生のシリアスな学校劇。どの作品も学年の特徴を活かしながら素晴らしいできばえでした。特に3年生の劇は、舞台の構成、展開、表現に優れ、観ている者を釘付けにしました。素晴らしいかったです。この全てが北町中学校の伝統なのだと思います。

一日一日を大切に過ごし、その時間の経過が1ヶ月となり、1年となり、そして10年と時を積み重ねながら、北町中学校の歴史の色を深みのある物に変えていくのだと思います。これからも北町中学校の生徒達、教職員、保護者、地域の方々の熱い想いで更なる北町中学校を築きあげて欲しいと心から願っております。



学校に置いていっていいもの

この夏、「文部科学省から、授業で用いる教科書やその他教材等が加重になることで、身体の健やかな発達に影響が生じかねない等の懸念から学校は配慮するよう。」と新聞等でとりあげられました。学校では、それを受け、検討し、学校に置いていっていいものを増やしました。(詳細は、各学年たよりで周知しております。)

そのため、同じものを使用しているの、必ず記名をし自己責任のもとで保管すること。置いていっていいものが増えたからといって、宿題等を含め、家庭学習をしなくてもいいと都合のいい言い訳をしないことです。

プール工事始めました

以前お知らせしましたプール改修工事が始めました。ご不便をおかけいたしますが、ご協力をお願いいたします。西門は、工事関係者の出入りにより安全管理のため使用禁止とさせていただきます。来年度には、新しいプールで生徒たちが水泳を行えることを楽しみにしています。

食欲の秋となりました!



「一粒の稲」から、何粒の米が実るのかご存じですか? 春に植えられた稲の粒は根をしっかりと張り、夏には炊きたてのご飯のようなかすかな甘い香りの花を咲かせ、実を結びます。品種や発育により異なりますが、一粒からは約 1000 から 2500 粒の米ができるそうです。

『米』という字は、稲の穂の形(点は米粒)を表していますが、「八十八」とも読めることから実るまでに八十八回くらい手間をかけて育てていると言われていています。夏から秋にかけて、実が育ち、農家の方の努力が実る“充実の季節”です。

『実るほど 頭を垂れる 稲穂かな』(詠み人知らず)

新米の季節。感謝の気持ちで、おいしいお米を食べましょう。

日本型教育

~海外で高い評価~



近年、日本の教育がもつ強みとして、学習集団であると同時に生活集団でもある学級の意義が海外で評価されてきていることをご存じですか。

学校は、授業だけでなく、給食や掃除、日直当番など、子供たちにとって最も身近で小さな社会です。そこには、学校生活における各種の実践的な集団活動の体験を通して社会を生き抜くための資質・能力を身に付けることも学校教育の大切な役割だと考える日本ならではの教育観があります。

今後は、欧米の教育を追うだけでなく、時代が変わっても変わらない日本式に誇りをもち、継続していくことも大切にしていきたいと思えます。